

由比地区産地協議会 産地水産業強化支援事業
改善計画書（漁獲物荷さばき施設）

1 産地水産業強化支援事業の概要

策定年度	産地名	産地協議会名
平成 23 年度	静岡県静岡市	静岡県静岡市由比地区産地協議会
目標年度	産地水産業の強化方針	施設整備支援事業の取組
平成 27 年度	漁村の魅力向上	漁獲物荷さばき施設

2 産地水産業強化計画における成果目標と達成状況

成果目標 (漁労所得の向上 3%以上)	基準年	平成 22 年度： 漁労所得 2,931 千円
	目標年	平成 27 年度： 漁労所得 3,078 千円
	増加額	147 千円 増加率 5.02 %

成果目標の達成状況 (漁労所得の向上 3%以上)	基準年	平成 22 年度： 漁労所得 2,931 千円	基準値との比較
	1 年目	平成 23 年度： 漁労所得 1,663 千円	
	2 年目	平成 24 年度： 漁労所得 1,376 千円	46.94%
	3 年目	平成 25 年度： 漁労所得 1,843 千円	62.87%
	4 年目	平成 26 年度： 漁労所得 1,767 千円	60.28%
	5 年目	平成 27 年度： 漁労所得 2,016 千円	68.78%
	労働所得の増加額 (実績値)	△ 915 千円	増加率

3 施設整備による効果と成果目標未達成となった原因

(1) 施設整備による効果

① 魚価の上昇 平成 27 年度の平均魚価 3,273 円

サクラエビの年間平均魚価 (円/kg) (プール計算前)

年度	見込み	実績	実績－見込み
平成 23 年度	2,796 円	2,549 円	△247 円
平成 24 年度	過去 5 年間における平均魚価 ＋ アンケートによる魚価上昇額 (2,751 円＋45 円)	1,678 円	△1,118 円
平成 25 年度		2,343 円	△453 円
平成 26 年度		3,030 円	234 円
平成 27 年度		3,273 円	477 円

平成 23 年度から 24 年度にかけて魚価が下落した原因については、福島第一原発事故の放射能による水産物への風評被害の影響及び駿河湾産と比べて安価で安定供給が可能な台湾産サクラエビの輸

入が増加したことが考えられる。その後、風評被害は鎮静化し、施設整備による品質向上により台湾産サクラエビとの差別化が図られたことなどから、徐々に魚価が回復した。平成 25 年度頃からは、多くの仲買人や大手量販店のバイヤーが新施設を訪れるようになり、鮮度保持の向上と衛生管理型施設についての理解がさらに広がり、目標年度の平成 27 年度における魚価は 3,273 円と見込みを大きく上回った。平成 27 年度は 26 年度に比べ、水揚量が増加したにも関わらず魚価が上昇しており、施設整備の効果が表れたものと考えられる。

② 作業時間の短縮

荷さばき施設整備：蒲原市場への運搬時間の解消 30 分、由比市場への水揚時間の短縮 30 分

施設整備前は、由比漁港から蒲原市場への運搬時間及びそれに伴う由比市場に水揚する漁船の待機時間が発生していたが、由比・蒲原の市場統合により蒲原市場への運搬時間が解消され、由比市場への水揚時間が短縮された。

③ 活きエビの取扱いの開始

活魚の出荷により魚価の上昇に取組んだ。

年度	取扱量	取扱額	魚価 (円/kg)
平成 23 年度	79.65 kg	842,940 円	10,583 円
平成 24 年度	165.9 kg	959,493 円	5,783 円
平成 25 年度	157.7 kg	1,757,242 円	11,142 円
平成 26 年度	81.45 kg	956,591 円	11,744 円
平成 27 年度	85.05 kg	1,014,671 円	11,930 円

④ センハダカ取扱いの開始

サクラエビに混獲される「センハダカ」は、鮮度が落ちやすいこと等から、これまで未利用魚とされていたが、施設整備による保冷能力の向上により、鮮度保持が可能となり、現在、商品開発に取り組んでいる。

年度	取扱量	取扱額	魚価 (円/kg)
平成 27 年度	4,449 kg	1,334,700 円	300 円

(2) 成果目標未達成となった原因

(1) のとおり、魚価については見込みどおりに上昇したが、水揚量が見込みを大幅に下回ったことにより漁労所得が増加せず、成果目標を下回った。

由比港漁協における強化計画策定後 5 年間のサクラエビの水揚量は、計画策定前 5 年間の約 68% に減少し、大井川港漁協における水揚量も約 60% と減少しており、計画策定前の水準に回復することは困難であると考えられる。水揚量が減少した主な原因としては、潮流の変化、海水温の変化、台風の大型化等の自然環境の変化が考えられる。

由比港漁協及び大井川港漁協におけるサクラエビの年間水揚量（プール計算前）

	強化計画策定前 H17～H21 平均・・・①	強化計画策定後 H23～H27 平均・・・②	②/①
由比港漁協	1,285,961 kg	877,095 kg	68.21%
大井川港漁協	423,313 kg	258,128 kg	60.98%
合計	1,709,274 kg	1,135,223 kg	66.42%

4 改善計画における成果目標

成果目標 (労働時間の短縮3%以上)	基準年	平成22年度： 1日当たりの労働時間 5.12 時間			
	目標年	平成30年度： 1日当たりの労働時間 4.62 時間			
	短縮時間	0.5	時間	短縮率	9.77 %

5 上記成果目標の設定方法

(1) 成果目標

当初の強化計画では「漁労所得の向上」を設定していたが、施設整備の効果を測る上では「労働時間の短縮」の便益の方がより適した指標であると考えられるため、成果目標を「労働時間の短縮」に変更する。

(2) 基準年及び目標年における労働時間

労働時間については、平成22年度の漁業日誌における1日当たりの労働時間を基準値とし、施設整備により解消される由比市場への水揚待機時間及び蒲原市場への運搬時間を減じた労働時間を目標値として設定する。

6 改善計画期間の取組事項及び年度別計画

平成30年度の活動計画

由比・蒲原市場の統合による労働時間の削減及び鮮度保持のための効率的な水揚、荷さばきの実施